

令和3年度 青少年の体験活動推進企業表彰 企業の取組事例集



優秀企業一覧

株式会社阿部長商店 南三陸ホテル観洋

「海の見える命の森」森づくり体験学習
～人と自然との持続可能な共生と共創～

Page2

石井造園株式会社

Discovery Yokohama ナラ枯れを探そう

Page3

サントリーホールディングス株式会社

サントリー次世代環境教育「水育」
～未来に水をひきつづくために～

Page4

第一フロンティア生命保険株式会社

第一フロンティア生命保険が提供する金融教育
「ライフシミュレーションゲーム Frontier World」で、
お金について学ぼう!

Page5

東急株式会社/株式会社サイバーエージェント/株式会社ディー・エヌ・エー/GMOインターネット株式会社/株式会社ミクシィ
Kids VALLEY 未来の学びプロジェクト

Page6

株式会社ナビタイムジャパン

観光ガイド制作を通じた地域学習プログラム

Page7

株式会社 バリューズフュージョン

小中学生の社会課題解決プレゼンテーション大会
「スタートアップ」r.アワード

Page8

株式会社ファンケル

特別支援学校に向けた自立した社会人となるための「オンライン身だしなみセミナー」

Page9

株式会社ファーストリテイリング

“届けよう、服のチカラ”プロジェクト

Page10

森ビル株式会社

ヒルズ街育プロジェクト

Page11

審査委員会奨励賞

SMBCコンシューマーファイナンス株式会社

株式会社NTTデータ

敷島製パン株式会社

株式会社TBSホールディングス

Page12

日鉄エンジニアリング株式会社

フューチャー株式会社

株式会社マルイ

株式会社丸協酸素商会

Page13

株式会社リコー

株式会社ルミエール

株式会社ローソン

Page14

Page15

広がる企業の体験活動

Page16

Page19

※掲載順は社名の五十音順となります。

※掲載文は各企業の希望を反映しているため、
文言が統一されていない場合があります。

「海の見える命の森」森づくり体験学習 人と自然との持続可能な共生と共創

株式会社阿部長商店 南三陸ホテル観洋



「海の見える命の森」の志津川湾と山岳地・市街地の全体を見渡すことができる台地上の展望は、震災と自然を伝承・学習するのに最適な地理環境である。その場所で、山づくりを通じて小・中学生の総合学習や、高校生・大学生の地域社会との連携教育や地域に根ざした学習活動が可能な『総合的な学習の場』として活用することを目的とする。

「自然を五感で体験する」ために徒歩でのトレッキングや自生しているクロモジを使用したお茶の試飲や、「自然災害などを想定して行動する」ため、重機などは使用せずに、自然にあるものや先人の技術を活用した井戸掘りや小屋づくりをするなど、技術の継承と自助・共助について考える体験を提供。震災記念碑の設置なども行うことで、震災の記憶と教訓を伝承する役割も果たしている。

南三陸ホテル観洋



事業概要	三陸沿岸の景観・食・人、等の資源を、散策道の整備や植樹活動などの山づくりを通して自然学習や減災・防災学習に活用し、震災の教訓の継承と自助共助プログラムを構築する。
対象者	小学生、中学生、高校生、大学生
実施日程	通年
参加者	628人

<https://www.mkanyo.jp/>



石井造園株式会社
Discovery Yokohama ナラ枯れを探そう



近年、神奈川県横浜市で拡がりを見せつつあるナラ枯れ被害の実態を調査し、里山の緑を守る事、同時に Discovery ヨコハマ、地元の良い場所の再発見をしてもらう事が目的である。小学生を中心に、その家族も巻き込んで楽しみながら覚え、考えてもらうことがその中心になっている。豊かな原体験がより豊かな発想を生み出し幸せな未来を共有する礎となる。実際の活動では、顕微鏡でナラ枯れの原因となるカシノナガキクイムシの標本を見せて実感してもらい、またドローンを飛ばして実際に映像を追ってもらうことでこれからの森林調査の手法も体験してもらった。

ナラ枯れの実態と里山の保全を深く考えるきっかけとなり、また、植物にも興味を持つ機会となったことで、その後卒業記念花壇づくりや植樹など積極的な行動も見られた。

石井造園株式会社

事業概要	横浜市にも広がり始めたナラ枯れの実態を把握し、情報を提供するためホームページにMAPを制作。情報収集のために小学生親子の参加できるイベントを実施、また小学校の課外授業としてナラ枯れの観察を行う。
対象者	横浜市内小学生と父兄
実施日程	令和2年10月～令和3年2月
参加者	95人

<http://www.ishii-zouen.co.jp>



サントリー次世代環境教育「水育」〜未来に水をひきつぐために〜

サントリーホールディングス株式会社



自然との共生が豊かな人間の生活にとって不可欠であるという想いを、次代を担う子どもたちと共有したく、体験を重視した独自の次世代環境教育プログラム「水育」を展開しています。「水育」は自然体験プログラム「森と水の学校」と、小学校で行う「出張授業」の2つの活動を展開しています。「森と水の学校」は、「サントリー天然水」のふるさと（白州・奥大山・阿蘇）で行う自然体験プログラムです。「出張授業」は、小学校の教室で映像や対話を通して、自然のしくみや大切さを学ぶプログラムです。また1人1台端末を使用する事後学習プログラムも開発しました。令和2年度からは、コロナ禍においても子どもたちの体験を通じた学びを止めないために、両活動共にオンラインでの活動を開始しました。生活様式が変化しても、未来に水をひきつぐために何ができるのかを自分事として考え続けてほしいと願い活動を展開しています。

SUNTORY



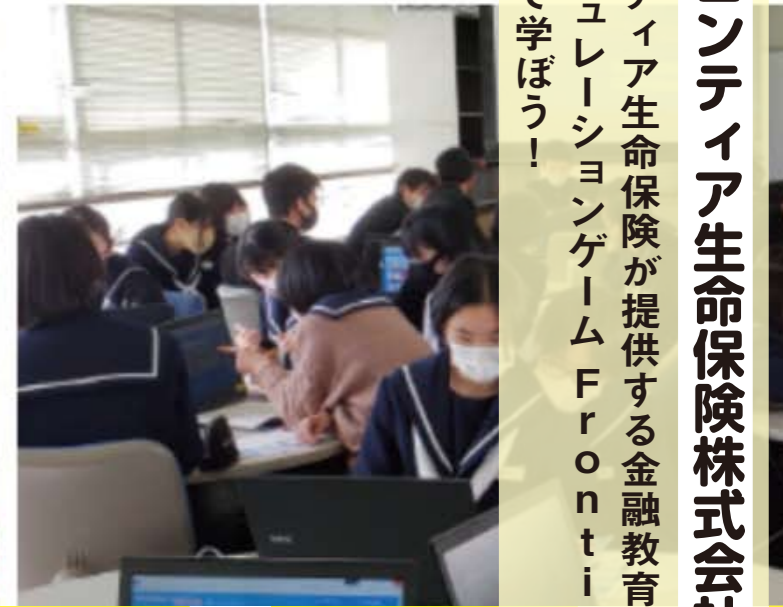
事業概要	「水育」はサントリー独自の次世代環境教育プログラムである。子どもたちが水や、水を育む森や自然の大切さに気づき、未来に水をひきつぐために何ができるのかを考えている。令和2年度からリアルとオンライン両輪での活動を開始している。
対象者	「森と水の学校」小学生3～6年生とその保護者 「出張授業」小学生4・5年生
実施日程	令和2年10月～令和3年3月
参加者	「森と水の学校」188人（6回開催） 「出張授業」8,427人（113校）

<https://mizuiku.suntory.jp/>



第一フロンティア生命保険株式会社

第一フロンティア生命保険が提供する金融教育「ライフシミュレーションゲーム Frontier World」で、お金について学ぼう！



老後の生活費の重要性が高まり「貯蓄から投資へ」といった経済環境の変化、2022年度の高校の新学習指導要領の見直しによる家庭科授業の背景等、金融リテラシーに向けた取組が盛んになっています。またSociety5.0等AI・IoTを活用した世の中のGIGAスクール構想を推進する動きもコロナ禍により益々進む中、子どもへの金融教育方法の不安、教育機関や保護者の課題も大きく、自治体においても官民一体の協働による対策が求められています。こういったことを背景に、ゲームを通じて「お金の大切さ」に加えて「金融基礎知識」を遊びながら学べる内容のボード版ゲームを開発しました。さらに、IoTを活用した「金融リテラシー教育」の実現をねらいとして、WEB版ボードゲームを開発し、「オンライン」「オフライン」の垣根を超えた視点で、特徴を活かした価値ある教育の構築を目指していきます。

事業概要	SDGs 目標達成に向けて自社開発した「ライフシミュレーションゲーム Frontier World」を活用して、学生達が金融の基礎知識や資産形成などを学べるように、学校向け出前教室・オンライン授業を展開。この金融教育コンテンツでは、従来のボード版に加えて、GIGAスクール構想にあわせた形でWEB版も開発しており、利用者側のニーズ選択を可能として「オンライン・オフライン」の垣根を超えた授業が展開できる。
対象者	全国の小学6年生～大学生まで
実施日程	令和2年7月～令和3年3月
参加者	1,700人（24回）

<https://www.d-frontier-life.co.jp/corporate/sdgs/education/index.html>



第一フロンティア生命
Frontier World



Kids VALLEY 未来の学びプロジェクト

東急株式会社 / 株式会社サイバーエージェント
株式会社ディー・エヌ・エー / GMOインターネット
株式会社ミクシィ

渋谷区の恵まれたICT環境とIT企業の集積というリソースを活かした官民連携による本事業を通して、渋谷からIT分野において世界で活躍する人材の育成を目指しています。IT企業の第一線のエンジニアが直接指導し、エンジニアの職業の魅力を紹介することで、プログラミングの楽しさや、プログラミングと社会の関わりを伝えるべく、区立小・中学校におけるプログラミング教育の支援や、夏休み期間にプログラミング関連のオープンイベントを開催しています。イベントについては、コロナ禍に伴う自粛生活が続く中での開催だったことから、オンライン開催とすることにより、外出を控えている子ども達や東京から離れた所に住んでいる子ども達も楽しんで参加することができました。これら一連の取り組みを体系化し広く発信することで、日本全体のプログラミング教育を牽引し、社会における人づくりに貢献しています。



事業概要	渋谷から「日本の未来を育てる」プログラミング教育プロジェクト。 ①渋谷区立小・中学校を対象とした官民連携のプログラミング授業支援 ②小中学生や教育関係者を対象とした夏休み期間のプログラミング関連ワークショップ・イベントの開催
対象者	①渋谷区立の小・中学生 ②全国の小・中学生、教育関係者、保護者
実施日程	令和2年8月～令和3年3月
参加者	①3,864人 ②708人

https://coeteco.jp/kidsvalley_2021



株式会社ナビタイムジャパン
観光ガイド制作を通じた地域学習プログラム

ナビタイムジャパン本社近隣にある渋谷区の小学校と連携を図り、地域の課題抽出～観光ガイド制作～配布～振り返りまでを一貫して体験できる内容になっています。制作過程において、自分たちの住む街を知り、子どもの目線で訴求ポイントを決め、主体的に制作に取り組んでもらいます。自ら考え行動することを促し、将来を担う子どもたちに、地域コミュニティへの関わりに興味を持ってもらい、自分たちにもできる社会貢献があると知るきっかけを提供できればと考えています。今年度は、コロナ禍で地域のあり方が見直されているなか、人々の関係が疎遠になっている今だからこそ、地域内のコミュニティにおける商店や施設の現状を知り、そして実地調査を通して人々の関わり方を自分ごととして捉え学ぶことで、社会の動きを学べるプログラムとして、カリキュラムの見直しを図りました。

事業概要	地域の将来を担う小学生を対象とし、観光ガイド制作を通じて、自分の住む地域を知り、地域との関わりや地域のあり方を考えてもらうための体験型プログラム。地元の専門家からサポートを受けて子どもたちが主体的に観光ガイドの制作を行っている。
対象者	小学生
実施日程	令和2年4月～令和3年3月
参加者	73人

https://corporate.navitime.co.jp/topics/pr/202110/18_5395.html



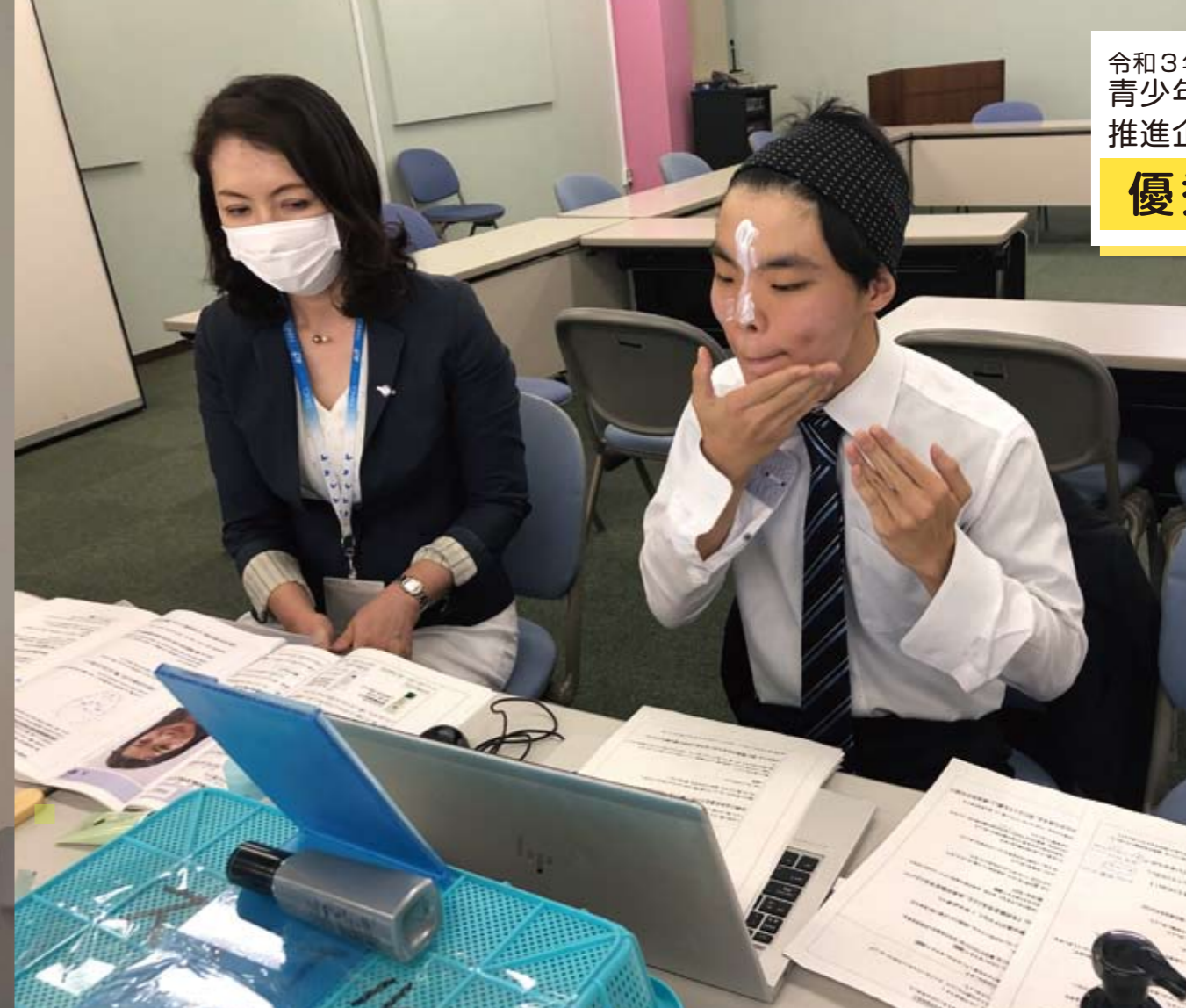


社会課題解決のアイデアを競うプレゼンテーション大会を主催。この取り組みを通じて子どもたちに、①社会に存在する課題を見つけ出す、②答えが一つではない課題に向き合いその解決策を考える、③自身の考えを他人に伝えるスキルを磨く、という「社会で生き抜く力」を身につける学びの機会を一般企業、メディア、自治体や教育機関など幅広く連携しながら推進。

子どもが感じている身近な課題や、日本、世界にある社会課題について子どもならではの、自由な発想力で解決へのアイデアを力強く表現する子どもたち。子どもたちの考えを伝える場を作ること。そのアイデアを実現可能な方向へ協力する企業や社会があること。そのような子どもと社会のよき出会いを創ることも事業目的であり、子どもを主役としたイノベティブな未来を創造することへ寄与する。



事業概要	小中学生による社会課題解決プレゼンテーション大会。子どもたちの身近な出来事や、日本・世界の社会課題解決へのアイデアを自由な発想力と表現力で伝える。学校、企業、自治体と幅広く連携し開催している。
対象者	全国の小学生および中学生
実施日程	令和3年3月
参加者	183人(オンライン参加も並行)



特別支援学校に通っている障がいがある子どもたちが、社会に出る前に自信を持ち、前向きに自立していくための身だしなみセミナーを30年以上前から開催。2006年度～2020年度で累計595回実施。

学生の間は家族に身だしなみを手伝ってもらおう生徒も多いが、卒業までに自分で基本的な清潔感のある身だしなみを整えられるようになってもらうのが目的。

特別支援学校卒業の講師がセミナーを実施することで、受講者から、「自分と同じ特別支援学校卒業の先生が活躍しているので、自分も頑張ろうと思った。」など、生徒に希望を与える存在になっている。

コロナ禍でもこの取り組みを続けるため、新たな取り組みとして、オンラインでのセミナーと、身だしなみ BOOK・商品サンプルの寄贈を実施した。

事業概要	30年以上前から、特別支援学校の高校生向け「身だしなみセミナー」を無料で実施。2006年から累計595回開催。2021年度からはコロナ禍でも実施できるようオンラインでも実施。講師は従業員と特例子会社の障がいがある社員が務めている。
対象者	「特別支援学校」に通う高校生(知的・肢体不自由・盲・聾など)
実施日程	令和2年9月～令和3年3月
参加者	1,486人(合計50校)



優秀企業

”届けよう、服のチカラ”プロジェクト

株式会社ファーストリテイリング



Photo: Shu Tokonami

ファーストリテイリングでは、服の持つチカラをできるだけ長く活用することが重要な責務と考え、不要になった服の回収活動をユニクロとジーユーの店舗にて実施している。回収した服をリユースし、世界各国の難民・避難民へ寄贈する活動をUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）と協働して2006年より開始した。その寄贈活動を続ける中で、難民の約半数を占める子どもたちの服が慢性的に不足している課題が明らかになった。そこで、国内の学校と協働して子どもたちに難民問題について出張授業で伝えながら、不足している子ども服を回収する本プロジェクトを2013年から全国で実施している。

プロジェクトの狙いは、①子どもたちが身近な「服」を通じて難民問題や環境問題に関心を持つきっかけを作ること、②「自分にもできる社会貢献がある」と気づき、自ら行動する機会を提供すること、③服の回収の呼びかけ等を通じて地域社会とつながる機会を提供すること、の3点であり、児童生徒が「自主的に」地域や校内での子ども服の回収方法を考え、実践に移すことに重きを置いている。



事業概要	ファーストリテイリングがUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）と取り組む、参加型の学習プログラム。社員による出張授業を受けたのち、子どもたちが主体となって、校内や地域で着なくなった子ども服を回収。回収した服は、難民などの服を必要とする人々に届けられる。
対象者	小学校1年生～高校3年生（特別支援や盲学校、定時制、外国人学校等含む）
実施日程	令和2年6月～令和3年2月
参加者	全国625校、児童生徒約7万人

https://www.uniqlo.com/jp/ja/contents/sustainability/society/youth/school/power_of_clothing/index.html



優秀企業

森ビル株式会社
ヒルズ街育プロジェクト



地域の方々と共に街づくりを推進してきた当社が、“街”の魅力や“都市づくり”のノウハウを、次代を担う子どもたちに楽しみながら伝えると共に、子どもたち自らが街の未来について考える機会を提供しています。

六本木ヒルズ、アークヒルズ、虎ノ門ヒルズ等の当社が開発・運営を行う本物の“街（ヒルズ）”を教材として活用し、当社が大切にしている「安全・安心」「環境・緑」「文化・芸術」をテーマとした親子向けの多様な体験型プログラムを実施。子どもたちが“街”や“都市づくり”に興味・関心を持ち、自分の住む街に主体的に関わろうとする姿勢を育むこと、つまりは未来の都市づくりの担い手になることを目的としています。

また、一連のプログラムを通じて、子どもたちが変化の激しいこれからの社会を生き抜くうえで必要となる能力の開発・強化も強く意識しています。



事業概要	次代を担う子どもたちを対象とし、当社が運営する街（ヒルズ）を“生きた教材”として活用した体験型学習プログラム。子どもたちが有する無限の可能性を拓くことで、街の未来を創るプロジェクト。参加費は無料。
対象者	小学校3年生～6年生とその保護者、中学2年生
実施日程	令和2年9月～令和3年3月
参加者	延べ518人

<https://www.mori.co.jp/machiiku/>



令和3年度 青少年の体験活動推進企業表彰

SMBC SMBCコンシューマーファイナンス

SMBCコンシューマーファイナンス株式会社

<https://www.promise-plaza.com/>



PROMISE 金融経済教育セミナー

全国11か所の「お客様サービスプラザ」が主体となり「PROMISE 金融経済教育セミナー」を展開。未来を担う若者が社会に出る前にお金に関する正しい知識を習得し、適切な判断力を身に付けるための出前講座を開催。

- 対象者/全国の小・中・高校生(大学短大生・専門学生、一般の方も対象)
- 実施日程/令和2年4月～令和3年3月
- 参加者/小中学生・保護者: 38件 1,931人
高校生: 1,014件 85,870人



NTT DATA Trusted Global Innovator

株式会社NTTデータ

<https://www.nttdata.com/jp/ja/about-us/socialactivity/academia/>



NTTデータ アカデミア

小学生とその保護者を対象にプログラミング体験やITのしくみを伝える活動を実施。令和2年度は感染症対策の観点からZOOMによるリモート開催として、日本全国から3,048人の方々が参加した。

- 対象者/小学生とその保護者
- 実施日程/令和2年6月～令和3年3月
- 参加者/小学生 2,013人
保護者 1,035人



Pasco

敷島製パン株式会社

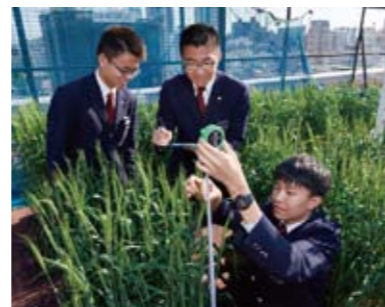
<https://www.yumehikara.com/>



自給率200%プロジェクト「ゆめちから」栽培研究プログラム

全国の中高生と国産小麦「ゆめちから」の栽培研究に取り組み、日本の食料自給率向上を担う未来の人材を育成する。パンづくりに最適な小麦の栽培研究と、播種教室や研究成果発表会などを実施。各校をオンラインで繋ぎ、研究課程の共有を図っている。

- 対象者/全国の中学・高校の、主に科学部や家庭部等に所属する生徒
- 実施日程/令和2年9月～令和3年9月(今年度対象期間以降も継続)
- 参加者/25人



TBS

株式会社TBSホールディングス

<https://www.tbs.co.jp/csr/article/20201224.html>



TBS特別HR「ニュース報道で養う共に生きる力」

日本の未来を担う小中高生が「コロナ」による分断の時代を「共に生き」「未来を拓く力」を養うお手伝いをする為の特別HRを企画。TBSが放送局として有しているスキル…報道機関の特性を活かしたニュース映像の力、技術力、独自の人脈、コーディネート力を最大限に活かし実施した。

- 対象者/各教育委員会より指定を受けた4校の生徒
- 実施日程/令和2年9月～令和3年2月
- 参加者/約1,600人



審査委員会奨励賞

その精神で、先導へ 日鉄エンジニアリング

日鉄エンジニアリング株式会社

<https://www.eng.nipponsteel.com/csr/socialcontribution/mission-e.html>



情熱・先端 Mission-E (中学・高校生向けのエンジニアリング教育プログラム)

洋上風力発電や大空間建築、工場の廃熱利用など、社会課題に対し、各校が8ヵ月かけて実機を設計・製作、その性能とプレゼンテーションをコンテストで競うエンジニアリング体験プログラム。(令和2年度は新型コロナウイルスの影響で令和元年度活動の報告会のみ実施)

- 対象者/関東地区と九州地区の高校生(中高一貫校は中学生も対象)
- 実施日程/令和2年8月
- 参加者/関東地区 計5校39人
九州地区 計4校29人



FUTURE

フューチャー株式会社

<https://www.fif.jp>



フューチャー イノベーション フォーラム (FIF) 「Kids Innovation Lab」

フューチャー(株)のCSR部門であるFIFは、他社と連携しながら社会貢献活動を行う団体。活動の柱のひとつ「Kids Innovation Lab」は社会課題解決型のキャリア教育やIT教育プログラムを提供し、のべ約3,250名が参加。今年度は身体を動かしながらプログラミングがどのようなものかを理解する「ダンスで学ぼう!はじめてのプログラミング」を実施。

- 対象者/小学1～3年生
- 実施日程/令和3年3月
- 参加者/16人



MARUI

株式会社マルイ

<https://www.maruilife.co.jp/shokuiiku/>



地域の取組みとオンライン料理教室

「大山の食を学び、味わう」をテーマに、鳥取県の学校給食で愛されている「水曜日のコッペパン」の原材料となる大山こむぎを使った、パンケーキ料理教室をオンライン形式で開催。

- 対象者/小学生の子どもを含む親子10組
- 実施日程/令和2年7月
- 参加者/子ども: 10人
大人: 11人



丸協

株式会社丸協酸素商会

<http://www.marukyosanso.co.jp/>



考えようSDGSとサイエンス!

次世代を担う子供達が、理科・科学を楽しく学べるように、体験型実験を披露している教育プログラムを実施。また、企業や行政・教育機関と連携しながら産業に触れる事で、社会と企業の繋がりについて考える機会を提供している。

- 対象者/保育園児～小学6年生
- 実施日程/令和2年9月～令和3年2月
- 参加者/約200人(合計5講演を実施)



令和3年度 青少年の体験活動推進企業表彰

RICOH 株式会社リコー

<https://sciencecaravan.ricoh/>



リコー・サイエンスキャラバン

- ①科学実験ワークショップの出席
自社のリソースを活用したワークショップを全国の科学イベントに出展し“科学と技術の面白さを体感することで関心を高めてもらう機会”を子どもたちに提供している。
 - ②探究型授業への取り組み
ワークショップで得た知見を活用し、教育現場の探究型授業を支援。生徒達が自ら問いを立て、探究する体験プログラムを提供している。
- 対象者/①小・中学生
②中・高校生
 - 実施日程/令和2年10月～
令和3年3月
 - 参加者/①54人
②194人



株式会社ルミエール

<https://reve-cake.com>



小中学生夢応援プロジェクト

- 子供達の「夢を叶える力」を育む取り組みとして、商品の企画開発、プロモーション、販売までを一貫して体験。プロジェクトを通して夢の大切さ、働く事の魅力等、お菓子作り以外にも、多くの事を学ぶ事ができる。
- 対象者/千葉県茂原市内在住の
小中学生(定員5名)
 - 実施日程/令和2年7月～
9月
 - 参加者/5人



審査委員会奨励賞

LAWSON 株式会社ローソン

https://www.lawson.co.jp/company/activity/topics/detail_jin/1446443_9112.html



東北地方の学校との商品共同開発(令和2年度6回)

- 東北地方の大学や高校の教育機関と連携し、学生と一緒に地元食材を活用した商品を共同で開発し、実際に東北地方の店舗にて発売。青少年の企業活動の実体験の場を創る。
- 対象者/東北地方(6校)の学生
 - 実施日程/令和2年5月～
令和3年3月
 - 参加者/約150人



様々な主体が協働して実施する体験活動の重要性

平成31年1月に発表された中央教育審議会答申「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」(平成31年1月25日)においては、「社会に開かれた教育課程」の理念も踏まえ、学校が家庭や地域の人々とともに子供を育てていくという視点に立ち、地域と学校の連携・協働の下、幅広い地域住民等(多様な専門人材、高齢者、若者、PTA・青少年団体、企業・NPO等)とともに、地域全体で子供たちの成長を支え、地域を創生する活動(地域学校協働活動)を進めながら、学校内外を通じた子供の生活の充実や活性化を図ることが大切だと述べられている。

さらに、先述した「第3期教育振興基本計画」においては、幅広い地域住民や地域の多様な機関・団体等の参画を通じた地域学校協働活動の全国的な推進を図る際には、関係府省が連携し、放課後や土曜日等の学習・体験プログラムの充実や、企業等の外部人材等の活用を促進する必要性が挙げられている。

「青少年の体験活動推進企業表彰」が果たす役割

「青少年の体験活動推進企業表彰」は、中央教育審議会答申「今後の青少年の体験活動の推進について」(平成25年1月21日)を受けて始まったものであり、今年度で9回目を迎える。企業が、体験活動が持つ可能性やその意義について理解を深め、自社の強みを活かし、全国各地で様々な実践が展開されることで、子供たちの充実した教育活動につながることを目的としている。企業から応募される取組内容は年々充実し、企業の取組が着実に広まっている。

本紙では、今年度受賞企業(優秀企業・審査委員会奨励賞)を紹介するほか、応募、全52事業の取組内容を掲載している。また、過年度の最優秀賞受賞企業と今年度受賞企業のうち、いくつかの取組については、動画による配信を予定しているため、ぜひ御覧いただきたい。(https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/1412628.htm)

本企業表彰が、社会全体で体験活動の機会創出につながる取組になれば幸いである。

文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 青少年教育室



『全ての子供たちが、夢と志を持って可能性に挑戦する上で必要となる力を、体験活動を通じて確実に育んでいくために』

体験活動の必要性

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、AIやVRといったデジタル技術の進歩による社会の急速なデジタル化や、カーボンニュートラルに代表される持続可能な社会実現に向けての世界的な潮流などにより、子供たちを取り巻く環境は大きく変化している。

このような変化の激しい社会を一人一人の子供たちが豊かに生きていくためには、生涯にわたって質の高い学びを重ねて成長し、多様な他者と協働しつつ、感性や創造性を発揮して新たな価値を生み出す力を身につけることが必要であり、教育が果たす役割は大きい。

平成30年6月に閣議決定された「第3期教育振興基本計画」においては、「子供の健やかな成長のためには、豊かな心を育むことが不可欠であり、このため、豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他社への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越え、物事を成し遂げる力、公共の精神等の育成を図るとともに、日本の伝統や文化を継承・発展させるための教育を推進することが重要である。」とされており、社会体験活動や自然体験活動等も含め、子供たちの多様な体験活動の機会を充実することの必要性を求めている。

(独) 国立青少年教育振興機構の調査※においても、自然体験や生活体験を多く行った者ほど、自己肯定感が高く、道徳観・正義感がある、自律的行動習慣や探究力が身につけているといった傾向がみられるという調査結果が出ている。

※「青少年の体験活動等に関する意識調査」(令和元年度調査、平成28年度調査)

令和3年度 青少年の体験活動推進企業表彰

味の素株式会社



出前授業「あなたのカラダはあなたの食べたものでできている」

Q <https://www.ajinomoto.co.jp/kfb/demaiejugyo/concept.html>

小学5・6年生を対象に家庭科連動で、給食を題材に栄養バランスのよい食事と成長期の子どもの身体作りに大切なたんぱく質を摂ること、おいしく食べることを意味する5つの基本味やうま味体験で学ぶプログラム。

NECネットエスアイ株式会社



南極くらぶ ～<知ろう・見よう・触ろう>～

Q <https://www.nesic.co.jp/csr/contribute-education.html>

南極越冬隊を経験した社員が講師になり、南極の自然や動物、越冬隊員の活動などを紹介。1～2万年前の空気が閉じ込められた南極の氷に触れたり、極寒の南極で過ごすための防寒服を着用する体験ができ、自然科学への興味や環境問題への関心を高める。

株式会社 音羽



親と子のふれあい「すし教室」

Q <http://www.otw.co.jp/>

「おいしい笑顔をお届けしたい」という想いから、本物の「すし職人体験」を通して食育を行い、親と子がふれあうことで幸せなひとときと笑顔が生まれる体験プログラムを実施している。

株式会社キッズスター



子ども向け社会体験アプリ「ごっこランド」「ジモトガイド」

Q <https://biz.kidsstar.co.jp>

国内50以上の企業・自治体を知る・学ぶ、地元を再発見みんなに伝えることができるアプリ。全ての体験コンテンツを完全無料で届けることで、いつでも・どこでも・誰でも、社会や地域に接することができる機会を提供している。

KDDI株式会社



ワークショップ型出前講座「スマホde防災リテラシー」

Q <https://www.kddi.com/corporate/csr/feature1-03/>

災害時に情報通信をライフラインとして有効に活用するためのワークショップ型出前講座を全国の高校等で実施している。本講座を実施することで、信頼できる情報を見極め、必要な情報を正しく発信することを学ぶ「情報リテラシー」、自助と共助の大切さや、災害時に必要な知識や気づきを学ぶ「防災リテラシー」の両リテラシー向上の推進を図っている。

清水建設株式会社

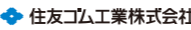


シミズ・オープン・アカデミー

Q <https://www.shimz.co.jp/company/csr/soa/>

青少年にもものづくりの楽しさや建設の面白さ奥深さを伝えるため、清水建設技術研究所の実際の研究施設、設備を利用して、ものに触れ、体験できる常設の公開講座プログラムを平成20年度より継続中。令和2年度からは上記プログラムの一部をオンライン化し、技術研究所のバーチャルツアーも開催。

住友ゴム工業株式会社 市島工場



オオムラサキ生育を通じた生物多様性保全教育事業

Q <https://www.srigroup.co.jp/products/index.html>

2007年から生物多様性保全活動としてオオムラサキ生育を実施。育成に必要な食樹を実生から育て、4年間エノキの成長を待っての事業である。オオムラサキと触れ合う機会を近隣保育園の園児たちに提供し、希少種保全の重要性を伝えている。

セイコーホールディングス株式会社



セイコーわくわく教室

Q <https://www.seiko.co.jp/csr/society/community/school/>

セイコーわくわく教室は、子どもたちが「わくわく」する体験に取り組み、人と人とのつながりを通して、「豊かな未来」を育む教室である。「時計教室」「スポーツ教室」「環境教室」「音楽教室」の4領域で、子どもたちの「笑顔」を「生きる力」につなげていく活動を展開する。

広がる企業の体験活動

ソフトバンク株式会社



りさ育る(りさいくる)

Q <https://www.softbank.jp/corp/csr/>

携帯電話を分解する体験を通じ、リサイクルの大切さを学ぶ環境教育プログラム。主に小学生を対象とし、実際に携帯電話を分解し、楽しみながらレアメタルなど使用されている資源について学び、都市鉱山と呼ばれる使用済み携帯電話の資源としての重要性に気づくとともに、身の回りの3Rの啓発を行うことを目的としている。

損害保険ジャパン株式会社



防災ジャパンダプロジェクト

Q <https://www.sompo-japan.co.jp/csr/environment/eco/bousai/>

将来を担う子どもたちとその保護者を対象に、災害から身を守るための知識や安全な行動を、いつでもどこでも学べるように、NPO法人愛知人形劇センターとNPO法人プラス・アーツの企画協力のもと、体験型防災ワークショップと動画ワークショップを展開しています。

公益財団法人 SOMPO 環境財団



CSOラーニング制度

Q <https://www.sompo-ef.org/cso/cso.html>

大学生・大学院生を、環境問題に取り組むNPO・NGOへ派遣する8か月間の長期インターンシップ制度。活動時間に応じて奨学金を支給する有償の制度で、奨学金の原資は社員による寄付金のファンド。

大日本住友製薬株式会社



次世代教育支援プログラム「科学技術と人の幸せ ～Your choice 未来を知る～」

Q https://www.ds-pharma.co.jp/csr/social_contribution/next_generation.html

生命関連企業の視点で構成した「生命・倫理」という正解のないテーマを通して、次世代を担う子どもたちが多様性を認め、自己理解・他者理解につなげることを目的としたプログラムで、カリキュラム・マネジメントの一つの取り組みにもなり得る。

千代田化工建設株式会社



釜石コンパス

Q <https://www.chiyodacorp.com/jp/csr/csr/student-acceptance.html>

高校生が自分たちの進路や将来を考えるため、人生の先輩の経験、仕事などの講義を通じ、社会を知る、関わることから、多様な視点を身に付けて自分たちで考える力を高めていく。

公益財団法人ニッセイ緑の財団



樹木名プレートと学校の木のしおりの寄贈活動

Q <https://www.nissay-midori.jp/>

“ニッセイの森”の間伐材を加工した「樹木名プレート」と、「学校の木のしおり」を全国の小・中学校へ寄贈、活用してもらう事業。子ども達が身近にある学校の樹木に関心をもち、自然環境への理解を深めていく事を目的としている。

日本ハム株式会社

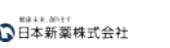


日本ハム「食育×食品ロス×キャリア教育プログラム」

Q https://www.nipponham.co.jp/csr/news/social/20200410_02/

いのち「生命の恵み」に感謝する気持ちが大切と考え、様々な食育活動を行っており、一般社団法人「プロフェッショナルをすべての学校に」の協力のもと、地方や離島の小学校の子どもたちに「食育×食品ロス×キャリア教育プログラム」を遠隔授業で提供している。

日本新薬株式会社



日本新薬きらきら未来 Library

Q <https://kodomo-bungaku.jp/>

物語と絵画の2部門で広く作品を募集し、選ばれた両部門の最優秀作品で2万冊の絵本を制作。制作した絵本と日本新薬きらきら未来こども募金を用いて購入した絵本を移動図書館車に搭載し、小学校や特別支援学校、地域イベントに訪問。

日本無線株式会社



ラジオ工作教室

https://www.jrc.co.jp/jp/about/activities/am_radio/index.html



電波についてクイズや実験により学んだ後、15mのコイルを巻いてアンテナをつくり、部品のはんだ付けを行いラジオ製作する。物づくりの楽しさを体験する教室を無償で実施。

日本郵便株式会社



「手紙の書き方体験授業」支援 GIGA スクール対応・端末活用授業コンテンツの提供

<https://www.schoolpost.jp/>



全国の希望する小・中・高校に対し、実際に子供たちに手紙を送る・もらう喜びを体験してもらうことを願って、手紙の書き方教材・郵便はがきに加えて、これからの GIGA スクール対応のデジタルコンテンツも無償で提供。

ノアインドアステージ株式会社



いのちの授業

<https://noahis.com/>



「いのちの授業」とは、心と体のバランスを整え自己肯定感や感性を養っていくことを目的としており、「LIFE いのち」の上映、テニスの体験を通じて、「質の高い教育をみんなに」というSDGs達成に取り組んでいる。

パナソニック株式会社



オンライン体験型～冷蔵庫ファクトリーツアー～

https://panasonic.co.jp/ap/eco_study/



パナソニックの冷蔵庫工場（滋賀県草津市）にてオンライン工場見学を提供。

教室にしながら、双方向で見学、インタビュー、働く人の工夫を体験するプログラム。

東日本電信電話株式会社



特別展「多層世界の中のもうひとつのミュージアム—ハイパーICCへようこそ」

<https://www.nttcc.or.jp/ja/exhibitions/2021/the-museum-in-the-multi-layered-world/>



NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] が実施する教育・文化振興事業。リアルとオンライン双方が補完しあう展示により、コロナ禍における多様な鑑賞体験を通じ、子どもたちの好奇心や想像力を育み、新たな創造に繋げる。

株式会社ファースト・ペンギン



「あなたも今日からアナウンサー」

<http://first-penguin.ltd/index.html>



社会体験活動として、「新しい時代の接客」や、表面的なテクニックだけでなく「自己紹介ブラッシュアップ」をアナウンサーより直伝。宮沢賢治の名作「注文多い料理店」を抜粋して朗読。子供のころからコミュニケーション技術を学び「聴くから始まる対話力アップ」を応援するほか、「すくに役立つ話し方 親子教室」を開催してインターネットラジオで公開。

株式会社 フジヤマ



「浜松ホテルも棲（す）める良い自然プロジェクト」

<https://www.con-fujiyama.com/>



はのき
浜松市浜北区灰木地区の公民館及び周辺の緑地や水辺を会場に地区住民（親子40名）を対象とした環境教室を開催。植物・昆虫などの自然に触れる体験を通して地域の自然の大切さや生物多様性の重要性について学習する。

株式会社ブリヂストン



グローバルコミュニケーション教室～世界につながる伝える力～

https://www.bridgestone.co.jp/sc/soc_japan/kidsprogram/class_01/



グローバル企業である当社社員が培ってきた、異文化間コミュニケーションにおけるスキルを伝え、実践プログラムを通じて、相手に正確に伝える方法やコミュニケーションのコツを学ぶもの。

株式会社マルイ



オンライン酪農体験+料理教室

<https://www.maruilife.co.jp/shokuiku/>



コロナ禍の外出自粛により、対面でのイベントが制限される中、オンラインを活用した酪農体験と料理教室を実施。地域の食文化や食材の供給工程を理解することで食に対して興味・関心を持ってもらう。

ミサワホーム株式会社



教育支援プログラム「南極クラス」

<https://www.misawa.co.jp/nankyoku/antarctic-class/>



南極観測隊員経験者の社員を先生として、本物、体験を授業の根底に置き、通常の授業ではなかなか触れることのできない内容を中心とした出前授業。理科や社会の単一教科分野のみならず隊員たちの仕事内容や職業観など、総合教育、キャリア教育としても対応。

株式会社村田製作所



「小中学生向け出前授業」

<https://www.murata.com/ja-jp>



2006年より小中学生を対象に、理科への興味促進を目的とした出前授業を開始。キャリア教育、環境教育、プログラミング授業の3つのコンテンツを提供。現在は24の事業所で、年間100回程度実施。これまでの参加数は累計11万人に達している。

ヤフー株式会社



ヤフーのオンライン会社見学

<https://about.yahoo.co.jp/csr/tour/>



「情報技術で人々や社会の課題を解決する」というミッションを掲げるヤフーは、中学生・高校生のみなさんにインターネット業界を身近に感じ、社会や働くことに対する理解を深めてもらうことを目指してオンラインで会社見学を実施している。

株式会社 LIXIL



ユニバーサル・ランクスports義足体験授業>

<https://www.lixil.co.jp/corporate/sustainability/community/education/ed-universal-run.html>



全国の小学校の児童を対象に、スポーツ義足の体験とパラアスリートとの交流および共生社会について考える座学の授業を実施。

理研ビタミン株式会社



わかめ食育授業【未来を拓く食育】

<https://www.rikenvitamin.jp/shokuiku/>



2005年から小学生を対象に「わかめ」を題材にした出前授業を開始。わかめの主要産地である岩手県で収穫した加工していない「わかめの原藻」を教材に「見て、触れて、匂いをかいて、緑色になる変化」を体験する授業となっている。わかめの栄養や漁師の方たちの苦勞を知ることで海藻の大切さを体感し、食事に対する感謝の念を学習する。

ワタミ株式会社



わたみ自然学校

<http://shizengakkou-watami.net/>



1999年度より、子供たちに「人は何のために生まれ、どう生きるのか」を考えるきっかけを提供できればと「命・自然・友達・生活習慣・夢」の5つのテーマを軸に小学校4～6年生を対象に約20年間活動をしている。



企業の力で青少年に多様な体験活動の機会を

青少年の体験活動推進企業表彰

表彰の目的	社会貢献活動の一環として青少年の体験活動に関する優れた実践を行っている企業を表彰し、全国に広く紹介することにより、青少年の体験活動の推進を図る。
表彰の対象	<ul style="list-style-type: none">・企業（営利を目的として経済活動を継続して実施する法人格を有した組織）が、社会貢献活動として主催した体験活動（企業が本来業務として実施する営利活動は対象外とする）。・令和2年4月1日から令和3年3月31日までに実施された体験活動。・参加する青少年（おおむね18歳以下の者とそれらを含む親子）を公募し、国内で実施した体験活動。
表彰の内容	全国より52事業（大企業39事業、中小企業13事業）の応募があり、優秀企業（プレゼンテーション企業）が10件、審査員委員会奨励賞が11件選出された。 ※最優秀賞（文部科学大臣賞）は、表彰式当日のプレゼンテーションにて最終審査により決定。

これまでの文部科学大臣賞 受賞企業

年度	企業名・事業名
平成25年度	株式会社リコー 【市村自然塾】
平成26年度	アサヒビール株式会社 【日本の環境を守る若武者成塾】
平成27年度	大企業部門 パナソニック株式会社 【映像制作支援プログラムキッド・ウイットネス・ニュース（KWN）】 中小企業部門 株式会社金沢大地 【コープ農園 大豆・味噌づくりコース】
平成28年度	大企業部門 べんてる株式会社・キャノンマーケティングジャパン株式会社 【校舎の思い出プロジェクト】を2社共同で実施 中小企業部門 ワイズティーネットワーク株式会社 【宇都宮市立中央小学校の紅茶部をサポート】
平成29年度	大企業部門 伊藤忠食品株式会社 【商業高校フードグランプリで食に関わる人材の育成・食育】 中小企業部門 株式会社栄水科学 【心を磨く習慣教育「エコピカはかせのおそうじ塾」～子ども達が明るく育ち、地域がHAPPYになれる環境づくり～】
平成30年度	大企業部門 株式会社 テレビ東京 【“すべての子どもたちに届ける”「テレビ東京の校外学習」】 中小企業部門 株式会社 長坂養蜂場 【楽しく学んで、養蜂とミツバチの恵みへの理解を深める「夏休み子ども採蜜体験教室」】
令和元年度	大企業部門 三井物産株式会社 【三井物産「サス学」アカデミー】 中小企業部門 有限会社エコ・ライス新潟 【温故知新！昔ながらの手作業から人工衛星を活用の農業まで都会で体験！】
令和2年度	大企業部門 阪急阪神ホールディングス株式会社 【「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」小学生向けキャリア教育プログラム】 中小企業部門 フジイコーポレーション株式会社 【うわ～きっず】



文部科学省

令和4年2月

担当：文部科学省 総合教育政策局地域学習推進課 青少年教育室

〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関 3-2-2 TEL:03-5253-4111 (代表) <https://www.mext.go.jp>